京城日報　朝刊

半島の陸運劃期的改革
中繼輸送の機能發揮
石炭は滿支炭の南下促進

本はすでに北京、天津の駐兵權、英米租界を奪取してこれを國民政府に返還し、また英米領事裁判權をも實質上失はしめたので現在英米は支那において治外法權は悉く喪失してしまつたのである、かやうに自國の失つたものをいまさら麗々しく抛棄すると稱して重慶に恩を賣らんとす

スタンドレー歸國

【クイビシエフ十日同盟】駐ソ米大使スタンドレーは十日クイビシエフ出發空路歸米の途についた、なほスタンドレーは歸國に先立ちモスコーでスターリン首相と再び長時間にわたり會談を遂げたといはれる

るに至つてはこれ以上麗々しき欺瞞措置はないのである、重慶が如何に單純なりともかゝる措置を喜ぶことは萬あるまいと思ふ、全アジヤ人の英米に對する痛恨の怨讐は、アメリカ、濠洲カナダにおける アジヤ人排斥法である、すなはちアジヤ人は歐米文化に同化し得ざる劣等民族として移民としての入國を禁止し、土地所有權をも奪ひその他あらゆる差別的屈辱的待遇を與へてゐることである、英米がこれらアジヤ人排斥法をそのまゝとして有名無實の治外法權撤廢をもつて支那に對する同情を誇示せんとするごときは兒戲に類するのほかはない、帝國は國民政府と提携してすでに支那における英米の帝國主義的權益を悉く奪還したのみならず進んでアジヤ全土より英米の勢力を驅逐し着々效果を擧げつゝあるのである、ことに英米驕慢派のうへは直ちに前記アジヤ人排斥法を撤廢させもつて全アジヤ人のため雪辱する固き決意を有するものである、重慶諸公は宜しく吾人とともに直ちに英米の桎梏より中國を救ひアジヤを解放せんとする運動に參加せんことを勸告するものである

歸國華僑の誘致
重慶躍起の狂奔振り

【廣東十一日同盟】重慶政權では最近歸國華僑の誘致に狂奔しつゝあるが、一度は理由もなく戰禍に怯えて逃避した華僑たちも蔣政權治下の內情を傳へ聞いて重慶入りを躊躇、現在ビルマ、雲南省境にはこれら華僑が蝟集しこの足を踏んでゐる有樣である、よつて重慶側では先頃來雲南省難民救濟委員會あるひは交通關係機關から係員を派遣して躍起となつてその誘致をはかりつゝあつたが、彼らが如何にしても重慶入りを承知せぬため重慶僑務委員會委員長陳樹人および海外部長劉維熾は昆明に飛び三日間にわたり同方面の歸國華僑收容所の實情を視察のうへ六日には雲南省政府主席龍雲と會見、これら國境に滯留する華僑の誘致策並に難地移住問題などにつき協議したといはれる

蔣、內部暴露を恐る
ウイルキー歡待に媚態の限り
異派の會見を禁止

【南京十日同盟】重慶側情報によれば米特使ウイルキーの來訪に際し蔣介石、宋美齡、孔祥熙らは媚態の限りを盡して御馳走攻めにしさすがの孫科派や黨元老達をも啞然せしめ識者の反感を招いてゐるがしかも一方において內部的矛盾の暴露を極度に怖れる蔣、孔らは與元老、軍政首腦といへども蔣直系親米派以外には會見を許さず、問題の周恩來には長時間にわたる會談を行はせながら中共の正式代表董必武のウイルキーとの會見は阻止し、またウイルキーに直接あるひは書簡 電報をもつて會見を申込んだ國家社會黨の張君勵 中國青年黨の左舜生、曾琦救國聯合會派の沈鈞儒らのうち左、沈の兩名は二日三民主義青年團幹部立會のもとに申譯的に會見を許されたが、書簡電報類は悉く嚴重な檢閱を受けウイルキーの手許にすら屆かぬ有樣なので中央はじめこれら諸黨派の幹部連らは蔣孔らの外資に對する媚態的態度

重慶の物價　五十倍以上

【北京十一日同盟】重慶の惡性インフレの危機は屢々傳へられるところであるが、最近の物價指數を見るとまさに天井知らずの暴騰ぶりで事變勃發當初に比較して五十倍以上といふ高物價を示し、これと並行して法幣發行高も大東亞戰爭後軍費調達に無理を重ねたため激増、約半年後の去る七月の發行高は二百五十五億八千萬元といふ尨大な數字を示してゐる

海軍豫算六十二億
米下院で可決上院へ

【ブエノスアイレス九日同盟】ワシントン來電＝米下院は八日六十二億三千六百九十五萬六千六百廿一ドルの海軍豫算案を可決してこれを上院に廻附した、上院の通過も確實と見られるが米國が新海軍豫算案においてもつとも力點を入れてゐるのは海軍機の擴張で同豫算のうち廿八億六千二百萬ドルは海軍飛行機一萬四千八百十機の建造費に充當される

印度獨立即時承認要請
マハサバ黨總裁

【リスボン十日同盟】ボンベイ來電によればヒンヅー・マハサバ黨總裁サバルカルは九日英首相チャーチルに打電し左記諸點の即時實施を要請した
一、英議會の印度獨立即時承認
二、戰時中に限り印度に英印聯立政府を樹立、ウエーベルを印度軍總司令官として留任せしめ軍

顧維鈞歸國

【リスボン十日同盟】重慶來電によれば駐英重慶大使顧維鈞は重慶報告のため目下歸國の途にある旨十日重慶當局より發表された

ソ聯政治委員を撤廢

【リスボン十日同盟】モスコー情報によればスターリン首相は十日勅令をもつて赤軍部內の政治委員を撤廢する旨の訓令を發した、右措置は赤軍統帥權の一元化を目標とするものであるが赤軍部內に政治委員が常置されたのは革命當時の國內動亂時代に始まるもので當時舊軍幹部に對する不信によりこれを監視する目的で設置されるに至つたものである、爾來政治部員は赤軍強化に軍幹部の選擇に軍の政治的に、軍紀の確立に決定的な役割を果し革命につゞく數年間にソ聯政權の確立を軍教育の強化に伴ひ赤軍幹部は大いに赤化されるに至り、獨ソ開戰以來の新幹部は最早昔日のそれでなく、必然的に政治委員の監視を必要とせざるに至り今回の廢止となつたものである

ード北部地區の摩天樓攻擊に對しては周到なる準備工作が施されたもので獨工兵ならびに突擊隊は同摩天樓の地下に多量の爆藥を裝置したのちこれを粉碎して敵陣の赤軍兵士を潰滅した、かくてすでに同市中心部を占領してゐる獨軍は同市北部においてもその陣地を強化するに至つた

翼贊會の成立

大政翼贊會が輝しい新體制の名において萬民翼贊の臣道を實踐すべき國民組織再編成の推進中核體として發足したのは第二次近衞內閣の昭和十五年十月十二日であつたが、その必要が直接的に痛感されるに至つたのはその時よりも約半年前閣部內閣末期の四月頃からのことであつた、當時內外の情勢はいよく緊迫を加へてゐたにも拘らず、國內では政友會の黨內抗爭が激化し、政黨解消の兆候が漸く顯著となるなど混亂を極めてゐ

たので、擧國强力政治體制の確立は焦眉の急務となり、この背景のうちに所謂近衞新體制の構想は漸次成熟して行つた

この近衞構想が當初政黨的なものと考へられ、七月政變によつて公が第二次近衞內閣の首班となるに至るやまづ『政府が黨を作るのは穩當でない』といふ意見に逢着し、ついで一國一黨の『幕府的存在』が問題となつて遂に擧國政社的な新體制樹立が目論まれるに至つたことは誰しも記憶するところであらう、かくて八月廿日新體制樹立に關する聲明となり『新體制準備委員會』の結成となり、これに對應して議會政黨も悉く解黨し十月十二日に至つて『第一次大政翼贊會』の創立となつた

行過ぎ是正

かくして生れた翼贊會はその規約を讀ひさらに發會式における有馬事務總長の挨拶は『翼贊會は大政翼贊運動推進の中核體である』とその一國一黨にあらざる所以を明かにし、總理大臣たる總裁のもとに事務總長をおき總務、組織、政策、企畫、議會の五局を統轄せしめるとゝもに總裁輔佐機關として常任顧問、常任總務若干名を、別に總務直屬の下情上通機關として中央協力會議を設置した、しかるにかくして政治、經濟、文化各般の國民組織再編成に向つて發足した

翼贊會はその實踐の過程において二つの强力な反擊に直面したその一つは翌十六年春の七十六議會における大政翼贊の憲法上の機關は議會であるとする議會勢力の反擊であり、他の一つは翼贊會自體の觀念的な行過ぎによる政策樹立機關的色彩に對する批判即ち『政府內にさらに政府を作るもの』とする論難であつた、かくて翼贊會は議會においてその法的性格を『公事結社』と局限され其觀念的な行き過ぎに對しては全面的な是正と陣容の更新が要求された、所

積極性の獲得

謂昨年三月廿九日議會修了直後の第一次改組である

新性格に順應する新機構は四月十七日に斷行された『第二次』翼贊會においては新たに副總裁制が設けられ國務相柳川中將の就任を見從來の五局を總務、組織、東亞、中央訓練所の三局一所に縮少、事務總長は石渡莊太郎氏がこれを襲つた、更生翼贊會はかくて組織局中心主義のもとに專ら國民組織確立の使命に邁進したのであつた、政府と組織後の翼贊會は貴衆兩院議員を大

【東京電話】行政機構の簡素化に大東亞省の創設に、產業界も各業種別重要產業統制會の設立をほゞ完了する等官民をあげて征戰必勝に邁進しつゝあるとき、國民運動の總本部たる大政翼贊會は幾多の苦難曲折を辿つて今日意義深い結成二周年の記念日を迎へることゝなつた、翼贊會が第二次近衞內閣のもとにおいて內外情勢の異常な緊迫のうちに國內新體制の具現として生誕したのは昭和十五年十月十二日、それから滿二ケ年を經た今日の日本は世界の激流に屹立して世界維新の指導者として米英旧秩序打倒の戰士として大東亞戰爭に臨んでゐる、この間わが國內體制は奔流する荒波を乘越え、打ち寄せる怒濤を破碎してあらゆる困難を克服しつゝ米英擊滅の必勝體制へと一路障碍を突破して來た、そして過去二ケ年種々の苦惱に直面しつゝも常にその本來の使命に基づき一億國民運動の推進體たる實を求めて征戰必勝體制の確立に邁進して來た翼贊會は漸く整備されんとする軌道の上に、大東亞戰下初の結成記念日を迎へたのであるが所謂『國內新體制確立運動』としてはゞ內に向つてゐた體制を大きく旋回し『征戰必勝體制確立』を目指して『歷史の推進體』たる性格を顯現するに至つた、翼贊會の發展過程をこの際顧みておくことは、さらに强力直截な翼贊運動展開のためには極めて必要であると思はれる

翼贊會　二周年を迎ふ

征戰必勝の大旆
歷史創造の運動展開

いて一段と政治性を發揮しつゝかつその本來具有すべき性格に邁歸する方途を勘案するの必要を痛感副總裁に北支新民會の安藤紀三郎中將を迎へて其の面目を一新すべく企圖した

實踐と實體

第二次改組以來ではまづ實踐力の獲得保持に當初の全力を傾注し、その第一手段として外廓團體の整備擴充に努め第二に官製運動を大幅的に翼贊會に移讓しさらに一方において議會翼贊體制の確立すなはち翼政會の結成を齎成して議會勢力と翼贊會の調和を行つた、即ち興亞思想團體の統一强化のため外廓團體たる興亞同盟を結成、本年一月には翼贊運動の挺身隊たる翼贊壯年團を創設、五月には行政各廳の主催する各種國民組織確立の運動すなはち產報、農報、海運報國團などの諸運動を擧げて翼贊會の傘下に吸收、同じく國民鍊成の諸機關をもこれに統合する方針を閣議決定とするなど實踐力の基底整備に腐心する反面、今春の總

部分調查委員會として實踐運動の埒外に置く反面自らとしても沈潛していつたのである

しかしかゝるうちにも內外の情勢は一段と緊迫を告げ米英を中心とする敵性は漸次露骨にわれに挑戰する態勢を示し翼贊國民體制の確立はいよく其の必要度を高めて來た、昨年十月この情勢に直面して現內閣が成立するや再び東條首相は翼贊會につ

選擧に當つては翼贊會をして翼壯剛新の中核體たらしめ旗幟を鮮明に振ひ拔くことによつて五月廿日國民黨望の淸新議會確立翼贊會との提携を目指す翼贊政治會を誕生せしめ、これが一應の整備をまつて六月九日安藤副總裁を國務相に兼し十日に至つてこれが全面的な改組を斷行、事務局機構を總務、鍊成實踐、興亞、調查の五局および傘下諸團體の統制運營に關する事項を審議する統制委員會に再編したのである

こゝにおいて翼贊會ははじて實踐力の實體を保持するに至り、政府は重要な國民運動の事業を翼贊會に委ね議會機能たる翼政會は國民の政治動員について國民組織の基底の上に立つ、つまり翼贊會の組織を通じてこれに當るといふ三位一體關係が確立され翼贊會はやうやくその本來の使命に專念する態勢になつたのであつた

實踐の一路へ

かくて一路實踐への軌道に乘つた翼贊會は第二次改組の過程において迎へた大東亞戰爭の完遂といふ歷史的使命に向つて國民組織を良導し一億の灼熱の中核體として起ち上ることとなつた、去る九月廿六、七、八、九の四日間にわたつては事務總長の後を兼ねた安藤副總裁の統裁下に聖戰下最初の第三回中央協力會議を開催、大東亞戰下一億國民の聖戰完遂不動の決意を上通したが、こゝに結成二周年を迎へた翼贊會は目前に十二月八日の大詔渙發一周年に臨んで鐵敗米英の總決、玄米食の奬勵生產力の擴充勤勞新體制の確立など國民戰時生活體制の再編を目指して傘下各團體を動員國民生活の實際面から歷史創造の翼贊運動を展開しようとしてゐる

佛潛水艦ダカール急航

【リスボン十日同盟】ビシー來電によればビシー政府は佛潛水艦增援部隊がダカールに急航しつゝある旨十日正式に發表した

夜間基地を飛び立たんとする獨機＝送電＝

兒戲に類する欺瞞
好富部長談話發表
米英の治外權撤廢

統制會の組織整備
生產戰必勝體制成る

さながら地獄繪圖
獨機、降伏勸告狀撤布
ス市攻防戰

【ストツクホルム十日同盟】モスコー情報によればスターリングラード西北地區では依然壯烈極りなき死鬪が續けられ獨軍は空軍の大編隊をもつて同地區の赤軍陣地を猛爆し邀擊するとゝもに新に增強された戰車、機械化步兵部隊をもつて獨の目の如く構築せられたソ聯軍陣地を遮二無二突破せんとして息もつかぬ猛攻を繰返してゐる模樣である、目下最大激戰地と化してゐるのは勞働者保護館附近で同所は戰略的最重要地であり、こゝを突破されゝば赤軍の防衞線は全面的崩壞の危機に瀕する可能性が多い、從つて獨ソ兩軍ともこゝに主力部隊を集結し死物狂びの攻防戰を續けてゐる、ソ聯側前線よりの報道によれば、過去四日間に獨軍は八十回にわたる突擊を敢行、やうやく數十ヤード前進することを得た、一方ソ聯紙イズベスチヤの報道によれば獨軍は過去五日間の激鬪によるその增強部隊の損害を冒して依然寸時も攻擊の手を緩めず續々赤軍に重壓を加へつゝある、これに對しソ聯側でもボルガ河東岸地區一帶に無數の增強部隊を集結、目下夜襲を利して西岸へ渡河せしめんと待機の姿勢をとつてゐるといはれる、また同紙は十日附紙上にスターリングラード從軍記者の報道を揭げ同地の凄慘な模樣を左の如く述べてゐる

目下ボルガ河東岸地區にな多數の赤軍增援隊が蝟集し西岸渡河への機を窺つてゐるがスターリングラードの市街は過去五旬にわたる激戰のため四分の三まで灰燼に歸し、しかも獨空軍の間斷なき爆擊により廢墟と化した、大建築物は今なほ炎々と燃えつゞけてをり、地獄繪卷を見る觀がある、夜間東岸からスターリングラードの市街を臨めば、炎々たる劫火は夜空を焦し兩軍の打ち上げる照明彈は物凄さをあざむく明るさで死の街をまざ〳〵と浮びあがらせる、實際ボルガ河を渡河するには遮蔽を張る必要はなく砲煙や廢墟から上る黑煙は十分その役目を果してくれるといふ有樣である、かかる焦熱地獄の中にあつて赤軍將兵は抗戰を續けてゐるのであるが最近獨軍は盛んに飛行機上から防衞軍に對し降伏勸告ビラを撤布してゐる

北部の摩天樓粉碎

【ベルリン十日同盟】デーエヌベー通信は獨軍當局より得た情報として十日獨ソ戰況をつぎの如く報じてゐる

一、九日東部戰線の戰鬪は局地的活動に制限されたがコーカサス戰線の北部地區では赤軍は攻勢に出るとゝもに落下傘部隊を降下せしめたがこれは不成功に終り獨軍の殲滅するところとなつた

一、コーカサス戰線を除く東部戰線の戰鬪は過去數日間不活潑狀態を呈してゐるがこれは惡天候に起因してゐる

一、スターリングラード地區においては九日終日砲兵隊の活動が行はれ一方急降下爆擊機ならびに戰鬪機隊は赤軍抵抗の中心地ならびにボルガ東岸の兵站線を猛爆した

一、赤軍航空部隊の活動は漸次低下しつつあり九日の如きは全く絕燼狀態にあつた

一、獨軍突擊隊はスターリングラ

太平洋會議に印度代表派遣

【ストツクホルム十日同盟】ボンベイ來電によれば印度政廳は十二月下旬ワシントンで開催される太平洋關係調查會議に印度代表を派遣することに決定した、代表の主なる顏觸れ左の如し
團長 ラマスワミ・ムダリアー（總督行政委員）▲サフルツラ・カン（重慶駐在代表）▲ケーエム・パニカヤ（ピナヤ侯國外務教育保健相）

ウイルキー成都發

【リスボン十日同盟】重慶來電によれば七日重慶を出發西南戰線を視察中であつたルーズベルト特使ウイルキーは九日早朝成都を出發空路歸國の途についた

日曜氣配

紡績、人絹株は今週に入つて一步引戾したものの小康を得た程度であり主力東新相場も卅円關門を中心に不透明な小浮動を繰返してゐるに過ぎず目先的には殆んど强弱なしといふ所であつた、一方時局、產業株の動きは七日長期の一部に委託證據金を引上げ貨物市場の一部にも證據金徵收を行ふことゝなつたのを動機に高値買警戒を呼んで前月から今月にかけ徐りに買煽られたものは多少反落を見せ騰勢力は減殺されてゐたが、しかし未だ次から次へと出遲れ株の買狙や好材ありとていかゞはしい昂騰株も現はれてゐるので財閥投資の要を痛感せしめられる點はあるが週明け後も引續き時局株の好調は持續されるものと見られる

▲大新六九、五〇▲新鐘九六、二〇▲鐘紡一五〇、丁▲東新一二九、八〇▲滿業五八、六〇

米英は日本を斯く觀る

不遜！誤れる優越觀 つひに世界動亂へ導く

米英陣營内における日本の實力過少評價は今に始まつたことではなく、數百年、少く共數十年の歴史を持つ、對日侮蔑觀乃至日本の實力輕視觀は、彼等米英國民の骨の髓まで浸み込んだ父祖からの遺産で、實際的に世界の勢力均衡狀態がどう變らうと、日本經濟文化がどう發展しようと、現實に日本によつて打ちのめされて見なければ、一朝一夕に醒りさうもない考へなのだつた、現在の動亂の世界に導いた原因は、彼等の他民族、他國家に對する不遜な誤れる優越感からだといつても過言ではないくらゐであるが、此の他民族に對する優越感が東洋民族たる日本に對する優越感をも含むことは當然で、しかもそれは米國において最も露骨に其の政策の根幹として採用された、日本は米英に對抗するだけの力量は持つてゐない、といふのが多少の反省はあつたとしても、大東亞戰爭勃發迄米國政界の大部分が採用した見方だつた、滿洲事變以來の對日政策は、大統領が變らうと國務長官が變らうと總て、此の線から生れた近くは日米交渉がそれだ、米國とても日本に對する憎しみだけで感情的に戰爭を挑んだわけではなく、交渉には彼等なりの充分の成算があつたはずだ、如何に非常識的な條件を出しても結局日本は米國の『世界一』の軍事力、經濟力の前に屈服するといふのが彼等の判斷であつた

對日過少評價

かくて、開戰劈頭眞珠灣で戰史未曾有の慘敗を喫し續いて想像だにしなかつた敗戰に次ぐ敗戰を經驗した米英陣營中に、混亂と狼狽、盲目的な對日憎惡と並行して、一部識者の間に、自己實力過信に對する反省が生れて來るのは當然であつた、眞珠灣の敗戰、マニラ、シンガポール（昭南島）の失陷は米英輿論の中に自國の軍事當局に對する數々たる非難を生み、或は過去における米英政府の對日外交の誤りを指摘し、或は東亞及び太平洋における防備の缺陷を鳴らし更に自國軍隊の批評と迄なつた、そして多くのヒステリックな叫びの中に、この戰爭を招來し、この結果を招いたのは、政府のみならず、米英國民全般の日本の實力無視、對日過少評價であつたのだといふ反省が生れ、日本恐るべしとなす日本再認識論が出て來た、日本の實力の過少評價の程度は英國における よりも米國における方が遙に甚だしかつた、從つてこれに對する反省ともいふべき日本再認識に關する纏まつた諸論說は主として米國に生れた、英國においては政府の對日認識不足に對する非難の聲は、議會で取り上げられ、大東亞戰爭以來幾度かチャーチル內閣の危機を招いたが、歐洲戰爭で苦杯をなめた英國では政府そのものが最初から戰局に對し米國の如く樂觀的ではなかつた、その對日認識是正論も主たる目的が米國牽制にあつた

米國においても纏つた對日評價是正論が現はれたのは、開戰半歲を經過した今年五月頃からだつた、當時エドガー・スノウとかウイリアム・チエンバレンとかナサニエル・ペツファーとか自他共に米亞通を以て任ずる連中は、一齊に筆を執つて日本再認識の必要を說き、米英國民が現狀の儘ならば對日勝利を得ることは全く不可能だと米朝野に向つて警鐘を亂打した、するとそれに追隨して、米國各紙はその社說で徹底的對日侮蔑の必要を說き、敗戰國民の士氣振興に大童の筆陣を張つた

笛吹けど踊らず

こゝでちよつと斷つておきたいのは、自由主義國米國の最も自由なる機關である新聞、通信は、何でも思ふ樣なことがいへると考へるのは誤りだといふことだ、それは昔のこと、戰時下にあつては、自由主義國米國にあつても御多分に洩れず、全體主義國家以上に言論統制が行はれてゐるらしく、新聞論調は輿論の反對であるといふより、政府の指揮意見の反映である、この間の事情を最も端的に現はしてゐるのはこのほどルーズベルトが全米の軍事施設、軍需工場等を二週間に亙つて視察旅行を行つたが、特種好きの米國新聞、ラジオ、通信が御大の大旅行といふのに出發から歸還迄一言半句もこれに觸れず、白亞館にルーズベルトが不在だといふことすら傳へてゐない

そしてルーズベルトが歸還すると同時に、白亞館の發表で各紙一齊に記事を掲げ、ルーズベルトは同日の會見で記者團に『諸君の協力を得て無事旅行が出來たことは感謝に堪へない』と云つてゐるのだ、こんな工合だから全米の各紙が一齊に社說其他で日本再認識の必要を喋々として出したのは、勿論米政府の國內士氣振興策の一翼をなすもので歐洲の敗戰で國民を踊らした結果、いざ戰ひとなつて、笛吹けど踊らない國民に戰時生產の思はしからぬ進捗振りに焦躁するルーズベルト政權の國內宣傳策とも考へられる

日本再認識論

米國の東亞通として夙に名聲を知らせてゐるエドガー・スノウは『日本再認識論』と銘打つた論策を公にした、米國內におけるこの種議論の中最も纏まつたものであり、また比較的的を外れないものといへる、スノウはまづ、大東亞戰爭前における米國の政戰兩略の失敗を責め、殊に軍事當局が比島だけでさへ防禦し得ないにも拘らず、東亞における英蘭全域の保護をも引受けるやうなつもりになりながら、しかもその艦隊を二分して、太平洋艦隊を日本の攻擊に曝して得る程强力にしておかなかつたといつて非難してゐる、これは眞珠灣の敗戰をみての米國側における結果論に過ぎぬが『戰に英國にもつと物資を與す必要があるといふだけの理由で大切な艦隊を南洋に割くとは何事だ』といつてゐるのは何よりも米國が日本の實力を見縊つてゐた證據であらう、彼にいはせれば『日本は米國々防が重點を失つた時に乘じて巧に我々を捕へた』のださうだ、その上たる原因として彼は一般的な日本の過少評價と、米海軍力の優勢過信とを擧げ前者を更に詳細にわけて說明してゐるその大要を示せば

日本過少評價の第一は米國民が眞の敵に非ずと認めてゐた物が眞の大敵であつたことだ、米國にとつて太平洋が大西洋より大切でないと云ふ理由はない、第二に米國から開拓せねばならぬ幻想はマニラやシンガポールやスラバヤは、戰略的にパリやロンドンほど米國にとつて重要でないといふ考へ方である、西半球に住む米國民は、この東亞の重要都市なしにも暮していけることは確かだが、然し戰爭でこれらの都市から隔絶された結果、米國にはすでに種々な缺乏が齎され、過去二年半の歐洲戰爭とドイツの西歐洲占領が米國生產に及ぼしたのとは比較にならぬほど大きな物資缺乏が米國に齎された

日本恐るべし

第三に彼が擧げてゐるのは、東洋へ行つたこともない時事解說者達の『架空の話』だ、日本はナチス・ドイツの手先だなどといふのは飛んでもない話だと彼はいふ、そして彼は『日本の指導者達は、ヒトラーがミュンヘン・ビール庫で謀議をしてゐた頃より十年も前から用意周到な計畫を立てて、大帝國建設への凡ての行動を斷乎組んでゐたのだ』と煽り立ててゐる

スノウが第四の自己過信として擧げてゐるのは日本が經濟的困難の內政上の緊張によつて崩壞するであらうといふ米國の希望的觀測論である、この點について彼はかういつてゐる

一九三一年の滿洲事變以來、余はかうした豫言を始終耳にしたが、どの豫言も的中しなかつた、反對に今日の日本は戰時經濟といふ點からすれば、一九三一年の日本より何倍も强くなつてゐる、日本經濟に關する餘りにも多くの統計が、今ですら日本が戰勝に伴つて累積し來れる資材を勘定に入れることを等閑に附してゐる、日本は既に米國の三分の二の廣さを有し、三倍乃至四倍の人口を持つ大帝國を築き上げるに成功したことを念頭に置く者は餘りにも少くない、米國民は日本が島國だといふ觀念を一掃すべきだ、日本は既に大陸國家となつてゐるのだ、日本と今日戰爭するには、悧悧にして謀略に富む敵國を相手にしてゐるのだといふ自覺を忘れてはならない

そしてスノウは結論として、日本が支那事變で疲弊したなどと考へるのは認識も甚だしく却つてその間に日本の軍事力經濟力は飛躍的な進歩を遂げたといひ『一九三八年以後支那における日本の戰鬪は事實上終熄し、僅かゲリラ戰だけがしつこく殘存してゐただけだ』と述べ日支戰爭に關する『[illegible]的な指標』に觀られることが如何に危險なるかを强調し現在の事態のまゝ推移すれば、米國は戰爭期間中絕對『防禦的防禦作戰即ちその場〳〵で間に合せの防禦計畫を實行してゆく』より他はあるまいと痛烈な警告を發してゐる

グルーの警告

このスノウの論文は當時この種のものとしては代表的なもので種々な反響を呼んだがこれと相前後して、永年米紙クリスチャン・サイエンス・モニター紙の特派員として東京その他東亞各地にあつたウイリアム・チエンバレンが雜誌『アジヤ』誌上に長文を寄せ、日本の地位の再認識を求めると同時に、東亞における英米帝國主義の敗戰を衝いて『十九世紀において完全に强力なるかに思はれた帝國主義も、眞珠灣攻擊からシンガポール陷落迄の十週間に殆ど他に例を見ぬ苛烈なる判決を下された』と喝破、日本の實力と東亞の情勢、民族感情を縷々として述べ、米英がもしこの戰爭に勝たんとすれば『從來の帝國主義を一擲し少數被壓迫階級の解放をモツトーとしなければ駄目だ』と植民統治の缺陷について四理由を擧げてゐる、この他ヒュー・バイヤス、ナサニエル・ペツパー、フリデリック・ムーアら米の東亞通が、その新著で同じ趣旨の論を公にしてゐる

しかし、米國における『日本を見直せ』との聲が流行とまでいへるくらゐの魅力を得たのは數々の人及び西國を載せて歸つた日米交換船グリップスホルム號が八月末ニューヨークに到着してから後である、グルー大使以下自他共に日本通を以て許す連中が機會ある毎に日本の强靱さ、日本の恐怖を說いて廻つた結果、戰時大量生產と共に現在米輿論の絕頂となつた感さへある、東京その他東亞の各都市で戰爭勃發と共に抑留され、身を以て大東亞戰爭下の日本と東亞との緊張を體驗した米國の新聞通信特派員達は、すでに交換船がロレンソ・マルケスに着くや否や、日本の再興を唱へる者なき事態と敗戰の故國に打電した、その中には單なる探物も少くないが、中には日本の戰爭決意の牢固たることを說き、戰線の强靱さを述べ、或は東亞共榮圈の資源の豐富さを指摘するなどして、地理的に經濟的に又精神的に、日本の不敗の地位をほのめかしたものも多く、この日本と戰ふ米國は その國力の凡てを擧げなければならぬと、米政府指導者及び國民に猛省を促してゐる

殊に永くニューヨーク・タイムスの東亞特派員をしてゐたオツトー・トリシャスの如きは『八紘一宇論』をニューヨーク・タイムス紙上に掲げ、日本の持つ戰爭目的は急造のものではなく ヒトラーの『我が鬪爭』に示されたドイツの戰鬪理論に勝る妥當性と有效性を有し、しかも日本國民は前線にある一兵士から銃後の名もなき婦人に至る迄この理念に徹して必勝の信念を固めてゐる、と戰時下日本の國民精神の昂揚を聲を大にして警告した、彼等の議論を一々此處に詳述しても致し方ないが、ともかくこれらの土產話は全米に大きな反響を呼ばずにはゐなかつた

そこへ交換船中隨一の大物グルーが、途中はおとなしくしてゐたが、ニューヨークに上陸するや否や

彼は十年間日本に住み、日本のことは何でも知つてゐるといふやうな前置きをして、記者團の報道を裏書きするやうな說明をしたから、日本再認識論はまた新たな勢ひで米輿論に登場して來た

日本軍の强さ

グルーは八月末歸米後今日迄にすでに數回に亙つて公開演說を行つてゐる、その都度彼は日本軍隊の强力さを說き、日本國民の揺ぎなき[illegible]を指摘し、米國がこの戰爭に勝利を收めんとせばまづ何を措いてもその全力を擧げて日本に當らねばならないと主張してゐる

彼は日本軍隊の强さを專ら精神的要素におきかういつてゐる

日本軍隊は國民生活と密接不離な關係にある、日本全土のあらゆる村落、農家、會社及び家庭から、多くの息子や兄弟や同僚が陸海軍に召集されてをり、日本の軍事機構は全く國民生活と渾然一體をなしてゐる

又他の個所では

勝利か然らずんば死といふのは日本の兵士にとつて單なる標語ではない、それは最高位にある將軍から新兵に至る迄、全軍隊を統制する極めて當然な軍律なのである

といつて『日本の勝利に貢獻してゐる何よりも重要な要素は日本帝國軍隊全部に浸透してゐる精神である』と

勝利到達の最も强力な要素たるこの精神は近代日本軍創立以來養はれ來つたものである、日本は防備を恃みとする英、蘭、米の諸國民の間に生ずる心理的影響を充分承知してゐた

と縷々として日本軍隊の强さ及び國民團結を說き日本が內部から崩壞するなどといふは全くの夢に過ぎず、却て米本土來襲も不可能に非ずと距離の遠隔さの故に比較的安全感に陶醉してゐるの愚を米國民に警告した、しかし彼の結論は勿論日本が恐いといふだけではない、米國は全國力を擧げ、國民の一人々々が緊張して對日戰を戰ひ徹底的に日本を擊滅せよといふにある

英ソ援助後廻し

グルーの數回に亙る演說は、殆ど同趣旨の繰返しにも拘らず、折が折、人が人だけに米國は傾倒的な受方をし、その公開演說のたびに米全土の各紙はその內容を詳細に亙つて報ずるは勿論、演說の後には必ずそれに關する社說が現はれ、贊否兩論囂々たる有樣である

勿論グルーの主たる意圖は、戰時下らしからざる米國民に對するルーズベルト政權の士氣振興策の一役を買つて出た感にあるのであらうが、これ等日本再認識論が强く叫ばれる結果、米國がその戰爭努力の主たる部分を擧げて、かなはぬまでも對日反攻に出て來ることは、日本としても勿論覺悟しなければならないところである

然し一方 この對日戰に主力を注げとの論が、英米ソの聯合國側に第二戰線問題、印度問題に次いで新しい禍を作りつゝあるかに見えるのは面白い、卽ち米國においては、對日戰爭に主力を注ぐため對英及び對ソ援助を一時後廻しにしろといふ、甚だ身勝手な議論まで現れてゐるが、こんなことになつては、英ソ兩國は卽座に潰滅してしまふかも知れない、ソ聯赤軍の勇敢なる抗戰も空しくならうし英國にとつては第二戰線結成どころではなく、正に御家の大事だ、英國では日本の强さなど一足お先にいやといふほど知らされてをり、それを今更他の戰場を犧牲にしても日本と戰へなどとは、自ら好んで自滅を招くのみだと、昨今米國の動きを大に警戒氣味だ、この米輿論の動向に喜んだのは勿論重慶と濠洲で、何やかやと太鼓を叩いて煽り立ててゐる、さるにても日本を再認識しただけでは、平和が齎されるわけでもなく、勝利が得られるわけでもないことを、彼等は充分に知るべきである、グルーとても米國民の日本再認識に對する熱意の持ち方が餘りにも遲すぎたことは承知してゐるのであらう

南京の双十節　大東亞戰爭下初の國民政府國慶記念日は南京大禮堂において 十日汪主席以下各委員長國府要人參列盛大なる祝典が行なれだ【寫眞は汪主席の閱兵をうける新中國の精鋭】

週間戰況

世界戰局の動き――今週間（三日―九日）における戰況は先づ六日伊潜水艦バルバリーゴが西アフリカ大西洋岸において米戰艦ミシシッピー型一隻に對し勇猛果敢に挑みこれを擊沈し戰果をあげたるを特記しなければならない、ス市を中軸とする獨ソ攻防戰は愈よ熾烈を極めス市最後の運命に逢着し陷落寸前に立ち到つた、更に米ルーズベルト特使ウイルキーは重慶を訪れ種々劃策するところあつたが徒らなる駈引に終り、米政府の冷淡なる態度にかへつて痛罵するの羽目に陷され抗戰は益々低下、ソ聯また米英聯合軍の援ソ工作による第二戰線結成が空證文に終るに不滿を洩させるなど樞軸陣營は着實なる足並をもつて制覇の軌道を驀進しつゝある

支那戰線

國共軍殲滅の作戰を晉西地區に起した我が軍は十月始め早くも敵院俘虜三千餘の赫々たる戰果をあげ敵十五師、三千を馬嘶に包圍殲戰果を擴張、敵の牙城大金山砦を占領、一方ルーズベルト特使ウイルキーは重慶に蔣介石を訪ね間斷なく反樞軸陣營の積極攻勢論を振り撒き焦慮する重慶の總攬工作につとめたが、これはウイルキーの聲明に對するルーズベルトの冷淡さにかへつて米政府に對する不滿は爆發し、ソ聯の失望不信とゝもにウイルキーの訪問は完全に失敗し樞軸の重慶は愈孤に閉ざされ刻一刻と轉落への深淵に追ひ込まれつゝある

歐洲戰線

獨ソ戰におけるスターリングラードの攻略戰は俄に活潑化し四日ス市北方の工場地帶に突入した獨强力部隊はソ聯第二の大工場赤色十月工場を占領したが市街戰においては一進一退の激戰を繼續しつゝある、また二百機以上からなる獨空軍部隊はグローズヌイ油田に對して新攻勢を試み四日夕刻には[illegible]台の戰車をもつてソ聯陣地深く突入した

五日獨軍の戰果の發表によれば黑海、ボルガ河、ラドガ湖上においてソ聯商船十一隻を擊沈、更に廿六隻、浮ドックに損傷を與へるとともに砲艦一隻、掃雷艇一隻、掃海艇一隻、護衛艦一隻を擊沈、掃海艇二隻、砲艦三隻、護衛艇四隻に損傷を與へた

一方六日伊潜水艦バルバリゴ號は六日西アフリカ、フリータウン南西洋上で米戰艦ミシシッピー型一隻を四回に亙つて魚雷攻擊をなし、これを擊沈多大の戰果をあげた、またコーカサス南下の獨軍はグローズヌイ西方マルゴベリを占領し快進擊を續けつゝある

半島と棉花增產

共榮圈內の自給へ 多年啓培の能力發揮

厚地農產課長談

半島棉作の今後の地位は大東亞戰下、その輝かしい共榮圈建設上至大となるに至つた、纖維資源の重要性が極めて大きく加はつて來たからである、半島はその使命に應へて棉花の一大增產運動を展開すべき秋となつた、我々は眞新しい視覺においてこれを見直さねばならない、この樣な意味で農林局厚地農產課長に常識的な棉花の素描をお願ひした

帝國 の棉花需要量は極めて巨額に上つてをり將來支那及び南方諸地域に於てその增產を圖るとしてもなほ東亞共榮圈の自給目的を達することは困難な狀態である、大東亞共榮圈內の棉花需要量に關しては織布、綿糸の事變前消費量により推算して大略二千萬擔とする見方が概ね各方面の支持を得てゐるが、これに對し共榮圈內の棉產地は支那、朝鮮、滿洲、ビルマなどの諸地域を除いてはその現在生產高は甚だ微々に止まる、しかして共榮圈全地域における最近の原綿生產は約六百萬擔に過ぎない狀態である

即ち事變發生この方圈內の最大棉產地たる支那においては戰火による棉田の荒廢、農民の逃避、旱水害などのために事變前の半分以下に低下し、棉花增產關係方面の努力により若干の恢復を示しつゝあるも尚且急速なる增產は困難である、またビルマ、蘭印、佛印、泰などの南方諸地域における生產は圈內總生產の六―七%に過ぎない

農產 資源豐富にしてしかも地域廣大なる南方各地において一段增產計畫を樹立すれば直ちに增產の實は顯現せらるゝものゝ如く考へる向もあるが、事實はさう簡單に捗るものでない、それは朝鮮において陸地棉を獎勵し來つた四十年の歷史が明かにこのことを物語つてゐる

叙上 の如くわが共榮圈內における棉花事情は現在の狀態においても甚だしく供給不足を告げてゐるが、なほ今後南方諸地域が從來歐米の壓迫より離脫して一度共榮圈の經濟に浴せしめらるゝにおいてはその購買力は固より人口の增殖にも一段と見るべきものがあるべく、また支那の農村振興、我國の人口政策の强行などと相俟つて纖維品の需要も益々增大するものと見なければならない

かく 觀じて來れば共榮圈全般に亙つて棉花增產を强行せねばならないことは勿論であるが、その中特に朝鮮においてはこれが增產に拍車を加へる必要を認めるのである、それは朝鮮が帝國內唯一棉產地でありしかも多年啓培して來た棉作能力を最大限度發揮して現在困窮に迫つてゐる棉花資源の一端を充足すると共に、共榮圈各地における棉花增產に直接間接の援助を與へねばならないからである

また刻下の問題としては棉花は軍需、官需、民需として出來るだけ多量の生產を必要としてゐるのである

朝鮮 においてはこの重大なる使命を充分果すべく昭和八年に棉花增產計畫を樹立して以來一途に增產へと邁進して來た結果、相當の實績を擧げたのは見逃せないが、なほ計畫目標に比べれば大きい隔りがあるのを認めるのである これは最近數ケ年に亙り天候不順のため豫期通り增產が得られなかつたには違ひないが、一方そのために農民の棉花增產の意氣込みも稍沈滯したのではないかと思はれる

また 最近は年を逐うて棉花の自家消費量益々增加し棉花に關する物動計畫が完全に遂行されなかつたのは甚だ寒心に堪へないのである、もつともその間においては販賣價格の問題もあつたらうけれどもこれについては當局においても大いに考慮するところがあつて本年度大幅の値上げが斷行されたのは幸ひである

當局においてはこのほか棉作農家に對して棉花供出後の困難を排除すべく綿布の特配を實施したりまた出荷獎勵金を交付して大いに出荷の增加を圖り、國家の要請に應へんと努力してゐる

棉花生產者は叙上の逼迫した棉花事情を充分に了解してなるべく自家消費を抑制し、一摘みでも多くこれを出荷して銃後における棉花報國の赤誠を盡すべきであらう

東亞共榮圈內に於る原棉生產狀況（大日本紡績聯合會調査資料による）

地域	生產高（擔綿）	地域	生產高（擔綿）
中華民國	四、七八五、四八二	佛印	二〇、〇〇〇
滿洲國	二五六、九七二	蘭印	三五、〇〇〇
朝鮮	六八二、七八五	ビルマ	三二〇、〇〇〇
泰國	二〇、〇〇〇	計	六、一二〇、二三九

昭和十七年度棉花價格（棉花共同販賣所に於ける實棉一斤單價）

	一等	二等	三等	四等
陸地棉	三四（二七）	三〇（二四）	二七（二二）	二〇（一六）
在來棉	二八（二二）	二五（二〇）	二二（一八）	一六（一三）

括弧內は前年度の單價とす

食品、燃料が騰勢

全鮮卸小賣指數企畫部調査

八月中の企畫部調査全鮮卸小賣平均指數が十日發表された、依然たる漸騰傾向を辿り卸賣物價の騰勢が前月比〇、七%、前年同月比四、四%と小賣物價の〇、一四%、三、六%に對比し上廻り今後の物價騰勢を示すものの如くみられる、品目別では卸調査品目八六品中前月比騰貴一四品、保合七〇品、出廻なし二品、小賣同八五品中騰貴一七品、低落六品、保合六一品、出廻なし一品で卸小賣とも食料品、燃料、雜品において騰勢著るしいことは注目される

▲卸賣――一、總平均二三九・三にして之を前月の二三七・七に比較すれば〇・七%、前年同月の二二九・七に比較すれば四・四%の騰貴を示した

一、各品目別に之を見れば前月に比較し騰貴せる主なるものは煉炭の二二・七%、白胡麻の五・八%、鰯寸の四・六%、燒酎の四・四%、木炭の二・三%、以の一・六%等にして低落するものなし

一、本月中における平均指數の前月及び各年同月に對する比較次の通り（昭和八年一ケ年基準）

▲小賣――一、總平均二一一、五にして前月の二一一、二に比較すれば〇、一四%、前年同月の二〇四、二に比較すれば三、六%の騰貴となつた

一、品目別に見れば騰貴せる主なものは煉炭の九、九%、菓子の三、五%、バナナの三、四%、茶の三、二%、薪の三、一%等にして低落せる主なものは馬鈴薯の四、〇%、押麥の二、一%、豚肉の二、〇%、鷄肉の一、七%等である

一、本月中における平均指數の前月及び前年同月に對する比較次の通り（指數は昭和八年基準）

分類	本月指數	對前月比較	對前年同月比較
▲食料品	[illegible]三三、五	+一、〇%	+四、三%
穀類	[illegible]四四、六	+〇、八	+〇、二
調味料	一〇八、[illegible]	+〇、[illegible]	+[illegible]
飲料	一六〇、一	+〇、三	+三、九
其他食料品	二五四、四	+一、一	+五、三
▲衣料品	二七〇	+〇、〇	+〇、五
▲金屬類	三〇一、〇	+〇、〇	+一、三
▲建築材料	二八八、六	+〇、一	+一二、三
▲燃料	二〇二、〇	+一、八	+一六、九
▲肥料	一四四、〇	+〇、〇	+四、三
▲雜品	二九六、九	+一、〇	+一〇、三
總平均	二三九、三	+〇、七	+四、四

分類	本月指數	對前月比較	對前年同月比較
▲食料品	二〇三、〇	+〇、[illegible]%	+二、七%
▲衣料及身廻品	三二〇、三	〇	+一、〇
▲建築材料	三七〇、〇	[illegible]	+二、六
▲燃料	二四八、八	+一、八	+一五、三
▲雜品	二五一、五	+一、一	+一九、五
▲總平均	二一一、五	+〇、一	+三、六

鮮銀福岡出張所設置

鮮銀では朝鮮、滿洲、支那各地ならびに南方々面との金融爲替業務の連絡中繼地として福岡市本西町に福岡出張所を開設することになり十日附設立準備委員長に下關支店支配人村上溫太郎氏を任命、これに伴ふ異動を發令した、營業を開始するのは大體十一月中旬の豫定で村上氏は初代出張所長に就任することになつてゐる

下關支店支配人 村上溫太郎 福岡出張所開設準備委員長
麗水支店支配人 勝津吉朗 下關支店支配人
釜山支店支配人代理 興原一郞 麗水支店支配人
下關支店支配人代理 藏谷武雄 福岡出張所開設準備委員
下關支店支配人代理 井上豪一郞 福岡出張所開設準備委員
元山支店支配人代理 山田豫根治 釜山支店支配人代理
旅順支店勤務 尾崎金治 元山支店支配人代理
下關支店派出所勤務 野村猿也 下關支店支配人代理

中小商工適正配置 中部商議聯が要望

物資の配給統制强化に伴ふ配給機關の整備に中小商工業者維持育成上、商工業者の適正配置を要請されるに至つたので、京城をはじめ仁川、開城、淸州、水原、春川の各商議をもつて結成せる中部商議聯合會では、九日京城商議に理事會を開き種々協議した結果來月十三日開かれる朝鮮定時總會に右商議聯合會の共同提案として『中小商工業者適正配置協議會を中央及び地方へ設置方要望の件』を提出することに決定、これが實現に乘出すことになつた

故湯瀨大佐進級

【東京電話】さきに上海において戰病死した湯瀨剛一陸軍大佐は陸軍少將に進級した旨十日陸軍省より發表された

▲陸軍省發表（十月十日）今般左の通り發令せらる

陸軍大佐 湯瀨剛一
任陸軍少將

湯瀨剛一陸軍少將は熊本縣菊池郡戶崎村赤星九三二の出身、陸士、陸大卒、陸士教官、第六師團參謀、昭和八年水戶高等學校服務、十一年九州帝大服務、十三年十二月久留米師團司令部附、十四年十一月近衞師團司令部附、十六年四月東部軍司令部附となり本年二月中支派遣班部隊長となつたものである

東京大學野球

早大大勝 對東大戰 14A―1

【東京電話】東京大學野球秋季リーグ戰早大對東大、慶大對立大、明大對法大の三試合は十一日神宮球場で擧行、早大對東大戰は東大先攻で午前九時四十分から開始、結局十四對一で早大勝つ、終了十一時四十八分

東大 000100000 1
早大 30050420A 14A

【投、捕手】東大、稻田、山崎、藤原、植田、早大、國本、緒方、近藤

立大勝つ 對慶大戰 7―4

慶立戰は引續き十二時八分開始、立大は藤本を、慶大は別當を投手板に送つて對戰結局七對四で立教勝つ、終了二時五十五分

立大 101040001 7
慶大 000000400 4

【投、捕手】立大 藤本、永利 慶大 別當、酒井

明大零敗 法政勝つ 2―0

明治對法政戰は明大島、法大柚木兩軍左腕投手對立で三時五分明大の先攻で開始結局二對〇で法大に凱歌揚がる、終了五時九分

法政 20000000A 2
明治 000000000 0

【投、捕手】明大島―田中 法大柚木―伊藤

瞼に描く"社頭對面"
半島の遺族部隊・きのふ出發

…社頭對面に心も躍る晴れの遺族——半島の五十二名は十一日午後二時十分發"あかつき"で本府社會課月城、同吳田通譯、京畿道社會課織田嘱託らに護られて一路懐しの九段に鎮まる英靈の許へ出發した、近づく靖國の臨時大祭に晴れの招待をうけた人達が感激に弾む足どりで特別仕立の『祭神遺族専用車』に乗りこめば早くもまばらな見送り人の中に挨拶が交された

『伜に會つて來ますよ』

と目頭に嬉し涙を浮かべる母らしい人

『久ちやんには、一年振りだよ』

父の顔を追懐する子供ら、ぢつと座席から見送る人達の顔へ『夫に會へる』喜びを送る妻等々遺族はこれらの慎ましい情景が御稜威と散つた勇士の榮譽にむせぶ言葉となつて埋められた

一行は途中大田、大邱各驛で次の遺族を乗せ十三日東京驛で先着の遺族等とめぐり合つた上、今回の合祀七十五柱百四十一名の遺族が二重橋前に着京奉告ののち宿舎に入り十四日社頭對面を行ふこととなつてゐるが歸路は廿日午後十時十分東京驛發で一路西下廿二日午後五時卅分京城着の豫定となつてゐる【寫眞＝遺族列車の發頭風景】

早くもお念佛
感激を語る遺族たち

感激に盈られた遺族達の言葉——京城本町二ノ一一伊東東作氏夫妻は

『ノモンハンで戰死した伜寅三中尉は妻の父から生前一番可愛がられてをりましたので社頭對面の歸路にはぜひとも父の墓にも参つて報告するつもりです、あれ以來伜に會ふ間もなかつたので今回はゆつくり兩親の顔を見せに行つてやります』

またノモンハン上空に自爆した陸軍の荒鷲山本貫少佐の實兄京城府鳳化町六山本英久馬氏は

『弟は妻も持たずに氣の強い男でした、飛行將校には妻は要らぬと生前から頑張り通したので、今考へればその通りでした、私は今度會つたら"お前の云ふ通りだつたよ"といつてやるつもりです』

そのほか年老いた母をつれて訪ぐ京畿道南浦明與町十四大田正男氏が同じノモンハンで戰死した弟大田國雄上等兵の爲に、また北支河南省で軍通譯として壮烈な戰死を遂げた金井龍雄氏の遺族金相弘氏が、これも老いた母京淑さんを連れて列車の一隅に納つてゐたが兩氏は交々

『母に會はせる機會が出來てどんなに喜んでゐるか知れません、母はこの通りまつきからお念佛ばかり稱へてゐますよ』

と老いの胸に伜の面影を刻む母達を静かに見返りながら晴れの招待に面をかがやかしてゐた

關門トンネル初潜り
大喜びの『福岡部隊』

【關門支局電話】鐵道省では來る十一月中旬から營業を開始する關門トンネル旅客列車の運轉に先立ち靖國の遺族達を優先的に通行させようとの親心から今日十一日福岡縣遺族を皮切りに世紀の關門トンネル初通行を行つた、遺族列車は靖國の父、兄在はす東京迄の直通列車である、九時鳥栖驛仕立の列車は十二時廿六分門司驛着、ここで電氣機關車に切換へられた、興奮が車内にひろがる、同車には遺族の感激を傳へるために録音器を携帯した小倉放送局員の姿も見える、愈よ門司驛發車だ、車内は既に緊張した、ぽつぽつ車窓に顔が出はじめる、愈よトンネルの入口近くになると窓が顔でいつぱいになる、列車はハイスピードでトンネルに辷りこんだ、慌てて窓を締る音に交つて窓は明けてゐても構はないと案内する聲で遺族達の中には顔を見合す人、大きい聲で話をする人、英靈に祈るかのごとくぢつと瞑目する人などすでに録音器には數人の言葉がはいつた、〇分の後トンネルを出て下關驛へ、日光に照らされた遺族の顔は嬉しさでいつぱいのやうだ、感想を聞くと交々語る

われわれが一番先にと思へば何となく濟まない氣がした、暗い所を通るともう本土に來てゐる、夢のやうです、船と汽車の乗換もなくありがたいことです』

工務關係幹部の錬成會
日本新聞會

【東京電話】さきに新聞通信記者の長期錬成を行つて決戰下報道戰士の錬育成に當つた日本新聞會では今回さらに新聞社工務關係幹部の錬成會を開催して新聞報國の使命達成に邁進することとなつた

今回は十二日から十六日まで四泊五日間全國新聞社より新聞印刷に陣頭指揮する最高幹部約五十名が参加する、開所式は十二日午前九時から外苑日本青年館に擧行、直ちに實習見學や精神講話の日程に入り十四日から箱根湯本の日本精神道場に移動し禊や拜禮の行に精進して心身の鍛錬に努める

火と燃える氣魄
旱害克服に起上る罹災民

旱害罹災民救濟に温かい親心を示して總督府では救濟事業費を總計六千萬円に計上、巨額の撥算で土地事業の勞銀撒布、或は副業奨勵に半島農村の福利更生を期し食糧増産陣の強化へ蹶起の努力を拂つてゐるが、これに呼應して罹災農村の起ちあがる旱害克服の氣魄は火と燃えてこゝに戰時農村、自力更生の實を着々と擧げ、こゝに官民一體の新生面出發の感激譜は秋空のもと逞しく奏でられてゐる

稔りの秋を迎へて旱害を見事に克服、愛國班或は小作人、地主と老幼男女が總立ちになつて血のにぢむ旱害克服はこゝに酬いられて、渺々たる秋の野にはいま豊かな黄金の波がうねりうねつてゐるといふ 血と汗の成果がこのほど關係現地の道から總督府厚生局長宛に報告されてきた、見よこの熱とこの力こそ、聖戰下食糧増産の重任を擔ふ我が半島が、その名譽にかけて押し切つた尊い汗潮の一齣である、以下はその足跡

◇……全北錦山郡福壽面谷南里部落聯盟では去る七月、炎熱の天候がつづいて既植畓に龜裂を起して稲作はいまにも枯死せんとする關頭に曝された、こゝに聯盟愛國班は總動員、河川底を掘り河川水を汲揚げる應急措置の工作を晝夜兼行で決行、こゝに收穫の秋を迎へて平年作以上をあげ得た、同完州郡助村面如意里、參禮地域約五百町歩がうちつゞく旱魃に灌水途絶が平年より三割も減つて水稲枯死の憂目に立ち到つたのを『雨ばかり待つてゐるこの際ではない』と同里の

耕作 者約八百名農民は敢然と蹶起、助村、雨田の二面に亘り困難な水路六十町の浚渫工事を起して流水作業に成功、さらに水利關係者はこの流れを上より下に次々と配水して區域内の水稲を枯死より救ひあげて最近では平年作の收穫見込みがついた

◇……益山郡五山面可長里および同内劍里では男女總出動で旱魃の真最中に未植畓の地均しより代用作の播種をなし、先見の理智がこゝに成功して代用作の豊作をあげた、また同郡五山面可長里平山本忠雄氏に旱魃のため灌水が杜絶えたのに義侠心を起し自己所有の發動機數臺を

無償 で村に貸與へ同部落の挿秧作業に協力、旱害をみごとに逃げた

◇……慶北聞慶郡南川、西川に沿ふ坡里、西院、茅岘一帶の廣野には水稲がいまにも枯死しさうであつた、こゝに部落聯盟愛國班の非農家四千四百名が結束して起ちあがり農民に協力、河川の掘鑿から灌漑、地下水の利用、洑の修理作業で蒙利面積三百廿町を完全に復活、いま秋の收穫に凱歌をあげてゐる

◇……慶州邑沙上里元農村振興組合長金井國龍氏（六〇）は今日まで寝食を忘れて部落民を激勵

旱魃 に苦しむ水稲植付から灌漑作業を指導して旱害からこれを救ひ、秋の作柄はほゞ良好となつた、清道郡清道邑地主大原永吉氏は河川水、地下水を最高度に利用、自ら進んで地下足袋に巻脚絆に身をかためて小作農民を督勵、しかも自費をもつて地下水掘鑿利用作業を起し旱害は一轉、こゝに豊作の喜びをあげてゐる

◇……醴泉邑内女子青年隊百五十名は健氣にも勤勞奉仕の火をあげてから、農村の手不足を助け、二キロの河床掘鑿、地下水の吸上工作に成功、旱害から植付を完全に終らせていま豊年譜を奏でてゐる

益々有望だネ
南方圏と半島薬草界
木村博士語る

九日から三日間に亘つて行はれた朝鮮薬學會創立卅周年記念に特別講演のため東大教授慶松博士と共に來城した陸軍衛生材料本廠研究部薬學博士木村雄四郎氏は、講演後本府衛生試驗所漢薬調査打合會に出席ののち十五日東京へ歸任することとなつてゐるが十一日の特別講演に先立つて南方共榮圏と半島の薬草界を對照して興味深く次のやうに語つた【寫眞＝語る木村博士】

薬といふ字は草を樂しむと書くほどだから薬草の人類に及ぼす力は大きいものだ、朝鮮では殊にこの薬草には恵まれてゐる、總督府には五年前から川口技師などの力で漢薬調査會が生れて全鮮の漢薬資源の品質向上のため規格を定めて漸く本年で完成したといふ話を聞いて愉快に思つてゐる、現在では虫下しとしての原料『ミブヨモギ』も十年前ソ聯から移植、また廿年前米國からは下剤薬の原料『アメリカアリタソー』等を栽培して共に成功してゐるから兩者共有望で、これから下剤や虫下しの薬は輸入をしなくても十分自給自足の域までは進んで行ける、また朝鮮には有名な『人參』や北鮮で産する古い薬草『朝鮮大黄』その他『ハブ草』『エビス草』等が豊富にあるから、これを規格して栽培すれば益々半島の漢薬界は有望だ、殊に緩下剤ではもう外國に依存する必要はあるまい、南のジャワでも薬草の栽培は盛んで、マラリヤの治療薬キニーネの原料キナ木を初め薬用植物の種類は澤山あつたが多くは外國からの種を移植栽培したものだ、朝鮮でもこの方法でどしどし外國の薬草を移植すれば、薬草の栽培には深い經驗を持つてゐる半島の人達だから、必ず立派に成功すると信ずるのである

技術家養成が急務
朝鮮教育界の感想
小澤團長語る

朝鮮教育會から派遣された内地各大學代表教授からなる"朝鮮教育視察團"一行は釜山を振り出しに咸興までの二週間に亘る視察行を終へて七日離鮮したが、團長として一行と行をともにした早稲田大學教育學小澤教授は十日午後一時四十五分京城着列車で金剛山から來城、宿舎で二週間に亘つて視察した朝鮮教育界の感想を次のごとく語つた【寫眞＝小澤教授】

さうしないと朝鮮の教育、文化は端的にいへば卅二年經つてもまだ内鮮一體を標榜して教育せねばならないといふのは少し情なくはないか、京城のある種の學校など設備といひ教員の努力といひ全く東京のものと變りがないほど完備してゐる、それでゐながら矢ツ張り一部に物足りないものがあるのが不満だつた、理由は種々あるやうだが先づ第一に教育の素材が生活的でないといへる、郷土の傳説とか歴史とか、半島人がその上に直接立つてゐる素材に就ては成るべく觸れない方針らしいが、それでは地に着いた教育は出來ない、皇國の途によつて今までに歴史を批判させ傳統を批判させるところに眞の教育はある、それには教育家の素質が問題となるだらうがうまく行かないやうでは教育家ではない

また反面に於て教育家を疑つてはいけない、もとく教育とは意志の結合によつて初めて成されることではないか、信じて斷乎として行ふべきである、義務教育は十九年度から履行されるさうだがそれと併行して父兄會の利用をもつとすべきだ、學校で幾ら教へても家庭でそれを破壊されるやうでは何にもならない、だから教育に對する家庭の婦人活動を引上げるのが早道だと思ふ

急激に上昇した内地の就學率に呼應して實業、専門學校の新設を急ぎ技術家を養成する必要がある、

から廻りして開發を遅らす一方だらう、數學の三大綱領の中には忍苦鍛錬なんて言葉があるが忍苦とはどういふ意味かね、どうも運命的であり受動的であり消極的で、まるで印度人でもいふやうな言葉ではないか、大東亞の指導者はもつと明朗に、もつと積極的に指導的になるべきだと思ふ

黄金町の火事

十一日午前十一時十五分頃京城黄金町五ノ二四六金山千歳方から出火、附近七軒を全焼して同十一時四十五分鎭火した、原因、損害は目下取調中

整然たる行動を
けふから"足の再訓練"
原田警察部長語る

戰時下頻發する交通事故を未然に防止し交通の安全増強に銃後擧つて總進軍させるため京畿道警察部では十二日から十六日まで五日間道内全般に亘り本年第二回目の交通訓練週間を實施するが本週間を前にして原田警察部長は交通認識の徹底、交通道徳の昂揚につき十日次の談を發表一般の協力を要望した

十月十二日より十六日迄五日間に亘つて第二回交通訓練週間が實施せられますが戰時體制下國策遂行の増強と非常事態に即應する統制秩序ある交通運輸の重要性に鑑みまして銃後國民總力運動の一として道民擧つて心から御協力御支援を要望致したいと存じます、交通訓練の目的は申すまでもなく一般道民の交通認識の徹底と交通道徳の昂揚にありましてそれによつて頻發する交通事故を防遏し併せて交通の安全増強にあるのであります、今本年一月より六月まで過去六ケ月間における道内交通事故の概況を回顧してみます時總件數二百四十九件でありまして中死亡三十五名、負傷者百八十一名、物件損壊五十五件之が見積額一萬六千六百卅八円に及ぶと言ふ慘状を呈してゐる現状でありまして斯くも多數尊き人命と貴重なる資材を損耗しつゝあることは啻に被害者家族の不幸たるに止らず國家的には銃後交通輸送力を阻害しその影響は誠に甚大なるものがあるのであります

而もこの怖るべき交通惨禍の原因は多く交通道徳の缺如と不注意油斷に基くものでありまして交通事故は決して不可抗力ではなく各人の徹底した交通認識があれば容易に避け得らるゝものが多いのであります、殊に交通訓練の必要は一朝有事の際發揮されるのでありまして非常事態の勃發に當面しても整然たる秩序を維持する爲に平素より十分なる自信と訓練が必要なのであります

交通訓練の遵守すべき事項と致しましては第一道路を歩行する時にはよく『注意して油斷せぬ』といふ事にありまして之が交通道徳の鐵則であります、其他左側通行とか交通信號や警察官の指示に遵ふ事、車道を横斷する時はよく左右を見定める事等多々ありますが要は各人の實踐如何にあるのであります、交通道徳の理想と致しましては各々個人々々が警察官や指導員の指示を以て動かされるのでなく積極的に交通道徳の命ずる所に從つて秩序正しく而も水の低きに流れるが如く整然と行動する様にならなければならないのであります、この事は一朝一夕に出來る事ではありません、殊に現在の朝鮮の民衆の交通状態からしては容易のことではないと思はれますが各人の覺悟と訓練によつて必ず實行可能のものたる事を確信致します

今次大東亞戰勃發以來我が忠勇なる陸海空軍將士の鬼神を哭かしむる奮闘を想へば銃後國民が國民總力運動の一翼である交通訓練に全幅の御支援を怠らざる事は國民として當然の義務と考へます、何卒各位に於かれましては篤と本訓練の趣旨を御理解下さいまして官民一體となり總力總進軍の意氣を以て交通總訓練の成果を收められ明朗なる銃後交通の完成に積極賛襄なる御協力を念願する次第であります

朝鮮薬學會創立卅周年總會
功勞者を表彰

半島薬業界に幾多の功績を收めた朝鮮薬學會創立卅周年總會は十一日午前十時から京城薬學専門學校講堂でひらかれた、國民儀禮のゝち玉田會頭の挨拶があり、それより總督告辭（本府衛生課長代讀）終つて高京畿道知事（代理）當川朝鮮軍軍醫部長、古市京城府尹（代理）藤田日本薬學會々頭（代理）その外滿洲、北支各薬學會會長の祝辭代讀があつて名譽會員慶松薬學博士以下の功勞者九十一名の感謝表彰狀授與が行はれた、續いて川口利一、石戸谷勉、西原字一氏らの研究論文發表が行はれ、それより會務報告、評議員選擧で午前十一時式を閉ぢた、なほ午後からは慶松薬學博士、平木薬學士、藤田、木村兩薬學博士の特別講演および映畫『地下を探る』の映畫が上映された

地下に挑む逞しき"増産譜" 完
物をいふ軍隊式訓練
二割増を目標に撓まぬ努力

無極鑛山 清州から自動車

全鮮十三道のうち唯一つの海を持たない道忠北の代表鑛物は何といつても鑛産物であらうか、山の道としての鑛産物も侮り難い底力を持つてゐる、約九百に近い鑛區を持ち現在二百餘の鑛山が採掘されてゐるが、その鑛種も金銀をはじめタングステン、マンガン、水鉛、コバルト、石炭など時局下特に重要な鑛物が多種に及び鑛山道忠北に負けじと素晴らしい意氣込みで増産譜が奏でられてゐる

清州から自動車で一時間半、陰城から更にトラックで四十分、陰城から三里餘の奥地陰城郡金旺面から中里の山中に忠北の代表的金山朝鮮製錬の無極鑛業所がある、記者は増産期間中の一日陰城郡西岡内務主任と同道で同鑛山の敢闘ぶりをみた

この鑛山は遠く高麗時代からすでに産金地として知られ、當初支那人によつて採掘が開始されたと傳へられる、當時金目司と稱し一時金目司なる官吏が駐在して産金管理に當り高麗朝のドル箱だつたが、のち金旺面と改稱されたといふ古い由緒を有つてゐる、明治廿九年出願、翌四十年に許可、一時獨逸人によつて採鑛せられ、のち經營者が幾變遷する間に大正十一年頃には業績芳しからず一時中止のやむなきに至つた、昭和六年再興、同十三年五月朝鮮製錬の手に移し本格的採掘に着手した結果、鑛價を發揮、相當永久性ある金山としての折紙がつけられるやうになつた

同行の西岡氏と記者は森末次長、杉本採鑛課長の案内で竪坑を降りて地下〇〇〇米の〇番坑に達する途中竪坑のエレベーターはデパートなどのそれとは勝手が違ひ、坑道内で棒に組んだ坑木がヂカに見えるほど骨組だけの代物にウッカリ頭でも坑木にぶつけようものなら無事では濟まない、少し大袈裟にいへば膽の小さいものは一ぺんに縮み上つてしまふものだ、これが地上と何百尺あるひは何千尺の地下との間を始終昇降し鑛石も資材も人間も運ぶのだ、だから鑛夫達の坑道ひも幾つかの同じ仕組のこのエレベーターによるほかなく先づこの邊から増産戰士の脈々ならぬ苦勞が察せられる、地下〇〇〇米の〇番坑では鈍いカンテラの灯を頼りに鑿岩機と鶴嘴とスコップを使ひわけて地軸に挑む逞しい戰ひを見て最も低い〇番坑に降りる最底部の〇番坑では先日の豪雨の際、古い鑛山だけに露天掘りの跡が到るところにあつて、この龜裂などころが崩壊し浸水したのでポンプによる除水作業の最中だつた

『さきごろの雨では弱りましたやうな濁水で昇れないところなにしろ縱坑は上からきつけが出來るし、こりやテツキリやられたと思ひましたよ、しかし幸ひ一人の犠牲者も出しませんでしたよ』

日頃の軍隊式訓練が物をいつてと老練な陸軍少尉の杉本課長は愉快に笑つたが、地下に敢闘する人人の勞苦のほどがしみじみ偲ばれる、軍隊式訓練といへば青年特別所を設置、青少年勞務者達に訓練を施すとゝもに、その他の勞務者一般從業員達にも職場ごとに徹底した軍隊訓練を行つてゐるのだ、そして近く鑛山内に一部の勤勞報國の勤勞奉仕によつて大規模な運動場を設け一つにはかうした職力増強の鍛錬道場たらしめるとゝもに他面各種の慰安、娯樂等のためにも有效に使用する計畫を樹て目下準備が進められてゐる、かうした徹底した訓練が行はれてゐる反面各種の從業員福利施設も備はつてゐるのでこの鑛山には他に見るやうな勞務者の移動が少く、また勤勞率がよく愛國貯金や獻金、廢品回收も相當見るべきものがある

先づ勞務者の移動率だが前記の訓練と勤續者に對する昇格その他の優遇措置、また一面こゝの勞務者は單獨鑛夫が若干で他の大部分は附近に居住する半農半鑛者であることなどゝ相俟つて移動が非常に少く僅かに五％位、また出動率もこの訓練と出勤者に對する一日九錢の米價補助、皆勤者に對する毎月の皆勤手當などがきいて移動はほとんどない、各種の愛國運動も從業員自らの盛り上る力によつて活潑に展開され、國語の常用訓練も中でも國語として會社が取扱ふ〇〇〇名の從業員の國防獻金だけでも毎月平均七十円以上に上り貯金は會社扱ひ團體貯金一ケ月一千五百円、同保險が月七百円貯金といふ貯金への息吹きも物凄いものであつた、かうした全山の勞務者達は一般國民として數々の愛國運動に精進し更に自らの本務である増産には昨年より二割増の目標を樹てゝ撓まない努力を續けてゐる【寫眞＝マンネサイト鑛山の露天掘】